

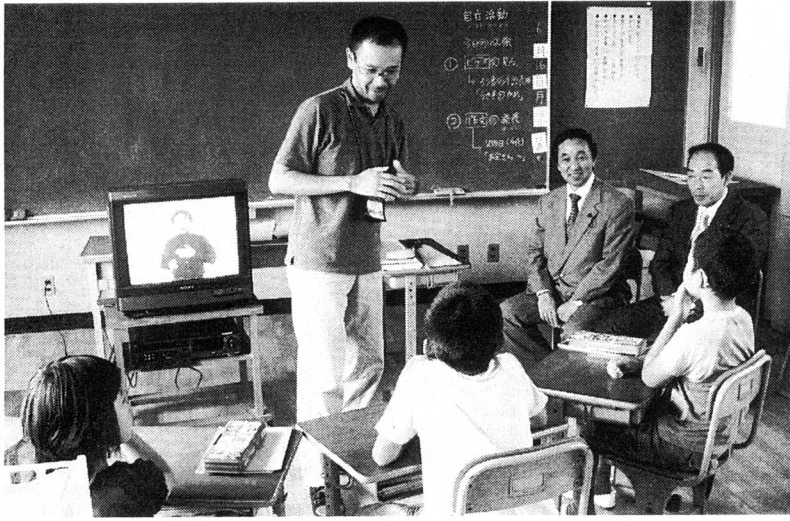
# 学力向上と個性形成に効果

## すべての授業を手話で

田川広島ろう学校で意見交換  
県議ら

広島県

耳が不自由な子どもたちのため、ろう学校は全国で106校あるが、広島市にある広島県立広島ろう学校（福永積校長、児童・生徒数74人）は4年前から、幼稚部から高等部までの全授業を手話で「おとうさん」について発表する。周りの児童も、先生の発表、手話での作文を、男児が手話が手たたきながら笑って聞く……。



実施、大きな教育効果を挙げ関係者の注目を集めている。公明党広島県本部の田川寿一県議と原裕治広島市議は先ごろ、校長・教諭らから聴覚障害・ろう教育について意見を聞いた。

### 聴覚障害

児者には、補聴器をつけても音声による日常会話が困難な人が多いため、また、先天性か言語獲得年齢の3歳までに高度難聴になると、正確な音声情報が脳に入らないために言語能力が低下する。聴覚障害者には、補聴器をつけても音声による日常会話が困難な人が多いため、また、先天性か言語獲得年齢の3歳までに高度難聴になると、正確な音声情報が脳に入らないために言語能力が低下する。

こうしたことを踏まえ、同校では4年前から、手話や簡単な単語を基としたコミュニケーション能力や日本語の読み書き、基礎学力などが伸び、健全な個性の形成も進んでいる。また、ろう学校で手話が普及しない理由として、「教諭が手話ができないことが挙げられた。同校の教諭も、同校赴任後に、初めて手話の必要

力が発達しない——ことなどが医学的に指摘されている。

一方、脳と言語・聴覚の関連性が解明され、言語脳科学専攻の東京大学・酒井邦嘉助教授は「手話は、文法（文を作る時の法則）を持つ自然に習得できる言語の一つ」であり、耳の聞こえない子どもが生まれた場合、できるだけ早い時期に手話の環境に接する機会を与えて、子どもに手話を母語として獲得させる必要がある、と指摘している。

確実な意思伝達が可能となった。

西川菊美・幼小部主任や池頭一浩教諭は、「コミュニケーション能力や日本語の読み書き、基礎学力などが伸び、健全な個性の形成も進んでいる」と、手話の教育効果を力説する。

また、ろう学校で手話が普及しない理由として、「教諭が手話ができないことが挙げられた。同校の教諭も、同校赴任後に、初めて手話の必要

性を感じ、校内での研修会に加えて公民館などに通うなどして手話をマスターしている。

福永校長は「大学の学科や教育実習に手話取得を入れる必要がある」と教員養成課程の見直しも訴えた。

現場の声を聞いた田川、原の両議員は「聴覚障害・ろう教育の手話の効用が理解できた。父母の声も聞き、党文部科学

部会長の斉藤鉄夫衆院議員とも連携して、手話教

育のあり方を検討したい」と語っていた。

育のあり方を検討したい」と語っていた。